

令和8年度 条例予算特別委員会 当初予算案の概要

水道局の施策体系・当初予算案総括表	1頁
施策目標1 水の安定供給と節水型都市づくりの推進	3頁
施策目標2 安全で良質な水道水の供給	4頁
施策目標3 危機管理対策の推進	5頁
施策目標4 安定経営の持続	6頁



水道局

水道局の施策体系

基本理念

みなさまから信頼される水道 ～安全で良質な水の安定供給～

「福岡市水道長期ビジョン2028」 (平成29年2月策定)

第3次「福岡市水道中期経営計画」 (令和7年3月策定)

に基づき、各施策を着実に推進します！



長期ビジョン
2028

中期経営計画
(4年ごとに策定)

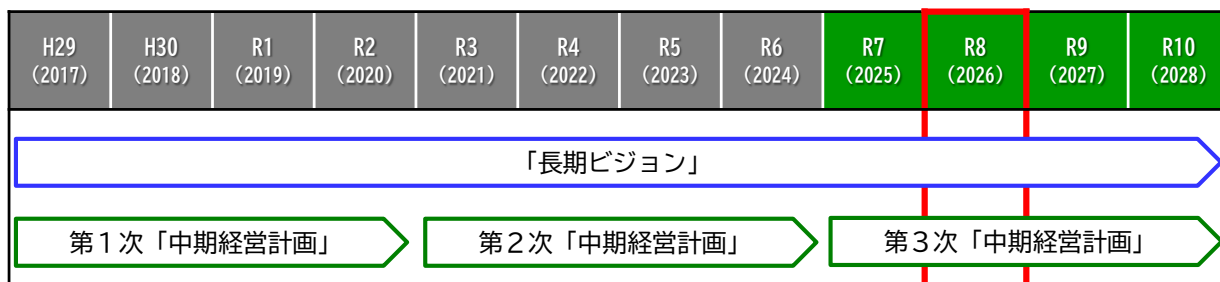
毎年度の予算・運営方針

水道事業運営の基本計画
(計画期間：12年間)

長期ビジョンの実施計画
(計画期間：4年間)

施策目標

- 1 水の安定供給と節水型都市づくりの推進
- 2 安全で良質な水道水の供給
- 3 危機管理対策の推進
- 4 安定経営の持続



当初予算案総括表

水道局 当初予算の規模

	令和8年度	令和7年度	比較増減
一般会計	1,777,840千円	2,055,365千円	△277,525千円
水道事業会計	70,968,781千円	69,148,770千円	1,820,011千円
工業用水道事業会計	410,701千円	614,691千円	△203,990千円

主要事業の当初予算額

	令和8年度	令和7年度
施策目標1 水の安定供給と節水型都市づくりの推進	20,730,253千円	19,674,984千円
ア 水道施設の維持・更新	19,301,338千円	18,461,782千円
● 配水管の整備 ● 水源・浄水場の整備 ● 浄水場の再編		
イ 水の有効利用	1,428,915千円	1,213,202千円
● 配水調整システムの整備 ● 漏水防止調査 ● 給水管の漏水対策 ● 「水をたいせつに」広報の推進		
施策目標2 安全で良質な水道水の供給	132,700千円	192,716千円
ア 水源かん養機能の向上と水源地域・流域との連携・協力	85,013千円	62,374千円
● 水源かん養林の整備 ● 水源地域・流域との交流		
イ 水質管理の充実	45,501千円	127,747千円
● 水質検査の充実 ● 福岡市独自の水質目標による水質管理		
ウ 給水栓における水質保持	2,186千円	2,595千円
● 小規模貯水槽の適正管理の啓発 ● 直結式給水の普及促進		
施策目標3 危機管理対策の推進	1,086,513千円	895,839千円
ア 地震等災害対策の推進	957,128千円	841,262千円
● 第2次耐震ネットワーク工事の推進 ● 重要施設の耐水化 ● 様々な自然災害への備え		
イ 事故・テロ等対策の推進	108,256千円	45,976千円
● 水道施設のセキュリティの確保 ● 水道原水の監視		
ウ 危機管理体制等の充実	21,129千円	8,601千円
● 危機管理対応の充実 ● 災害応急体制の充実		
施策目標4 安定経営の持続	336,466千円	210,274千円
ア お客さまとのコミュニケーションの推進とサービスの向上	69,175千円	53,670千円
● 積極的な情報提供 ● ICTを活用したサービスの向上		
イ 経営の効率化	64,722千円	26,282千円
● 水道DXの推進		
ウ 人材育成の推進	53,050千円	27,240千円
● 技術の継承等による人材育成 ● 国際貢献活動		
エ 環境に配慮した事業運営	149,519千円	103,082千円
● 再生可能エネルギーの活用 ● 省エネルギー・省資源の推進		

(1) 配水管の整備

(予算：12,435,000千円)

約4,100kmに及ぶ配水管について、実質的な耐用年数内に順次更新ができるよう計画的に更新工事を推進します。

- 《令和8年度 of 取組み》
◇配水管の整備 45km

Point

- ・令和8年度末に実耐用年数超過管を解消
- ・配水管の整備の際には、全て地震に強い耐震管を使用

配水管の布設工事



(2) 水源・浄水場の整備

(予算：4,413,755千円)

水源・浄水場設備等の更新を実施するとともに、ダムの長寿命化を図るため、国の実施要領に基づく総合点検を実施し、長寿命化計画の策定に着手します。

- 《令和8年度 of 取組み》
◇夫婦石浄水場設備の更新

新規 ◇ダム総合点検の実施、長寿命化計画の策定に着手 等

(3) 浄水場の再編

(予算：2,452,583千円)

高宮浄水場の浄水機能を乙金浄水場に統合します。高宮浄水場は、新たに緊急時給水拠点機能を持つ配水場として再整備します。

- 《令和8年度 of 取組み》
◇乙金浄水場の増強
◇高宮系送水管の整備

Point

- ・乙金浄水場整備工事、高宮系送水管布設工事は、令和8年度完了

浄水場再編事業の概要



(4) 配水調整システムの整備

(予算：334,411千円)

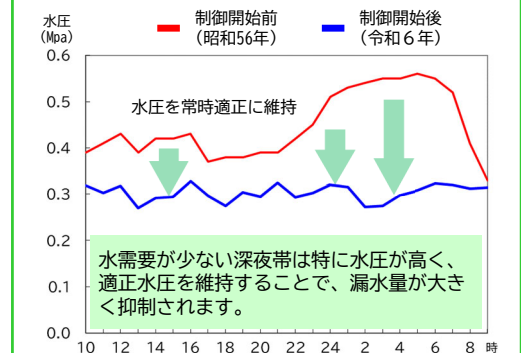
水管理センターで運用する配水調整システムの機能を適正に維持するため、市内に約300箇所設置している遠方監視制御装置等を計画的に更新します。

- 《令和8年度 of 取組み》
◇遠方監視制御装置、電動弁の更新 11箇所 等

Point (配水調整システムの機能・効果)

- ・各浄水場間の流量調整 (相互融通)
- ・水圧調整による漏水量の抑制
- ・配水管異常時の早期発見と配水ルート of 迅速な変更

水圧調整時系列グラフ



(5) 漏水防止調査

(予算：304,359千円)

市内全域の配水管と給水管について、漏水を早期に発見・修理するため、従来手法に加え、新技術を活用した効果的・効率的な漏水調査を計画的に実施します。

- 《令和8年度 of 取組み》
◇漏水調査の実施 (調査延長：2,880km 等)

(1) 水源かん養林の整備

(予算： 82,983千円)

水道局が所有する水源かん養林の機能向上や水源エリアの魅力向上を図るため、「福岡市水道水源かん養林整備計画」に基づき、スギやヒノキの人工林を主伐し、広葉樹の苗木を植樹するとともに、伐竹等の計画的な整備を行います。また、「ふくおか水源の森サポーター制度」を通して、市民や企業のみなさまに水を育む森の大切さを伝えます。

《令和8年度の取組み》

- ◇スギ・ヒノキの主伐、広葉樹苗木の植樹 5ha
- ◇水源かん養林の伐竹や下草刈り等 28ha
- ◇市外関連ダム周辺の水源かん養林の整備支援
- ◇福岡市水源の森づくり共働事業



(2) 水質管理の充実

(予算： 45,501千円)

安全で良質な水道水をじゃ口までお届けするため、水質検査機器の計画的な更新や水道GLP※に基づく精度の高い水質検査の実施、検査技術のさらなる向上等により、検査体制の充実を図ります。また、令和8年4月から新たにPFOS及びPFOAの水質基準が設定されることなども踏まえ、引き続き、精度の高い水質検査を実施します。

さらに、水道水の残留塩素濃度をきめ細かに調整するなど、水質管理の徹底に取り組みます。

※水道GLP：水質検査の信頼性等を第三者機関が客観的に判断・評価し、認定する制度のこと。

《令和8年度の取組み》

- ◇国の水質基準等よりも厳しい独自の水質目標による水質管理
- ◇水質検査計画の策定

Point

- ・PFOS及びPFOAの水質基準の改正に対応

徹底した水質検査

200 / 項目以上の水質検査	
国の「水質基準」 についての検査 かび臭、細菌、 トリハロメタンなど 52項目	福岡市独自の検査 農薬類など 150項目以上

(3) 給水栓における水質保持

(予算： 2,186千円)

お客さまに水道水を安心してご利用いただくため、小規模貯水槽（有効容量10m³以下）の適正管理に向けた啓発に取り組みます。また、「直結給水相談窓口」での技術的アドバイスや、関係団体と連携した広報活動等により、直結式給水の普及を促進します。

《令和8年度の取組み》

- ◇小規模貯水槽の設置者への啓発資料の送付
- ◇直結式給水に関するアドバイスや現地調査 等

貯水槽の適正管理の啓発

貯水槽の管理について、お客さまによりわかりやすく説明したパンフレットや、貯水槽の点検方法に関する動画を使って、広報・啓発に努めています。

パンフレットや動画は、福岡市HPに掲載しています。



パンフレットは情報プラザや各営業所でも配布しています。



直結式給水の普及

新築された共同住宅の

約99%

(令和6年度実績)

が直結式給水を選択されています。

施策目標3 危機管理対策の推進



(1) 第2次耐震ネットワーク工事の推進

(予算： 550,767千円)

地震等災害が頻発化・激甚化している現状を踏まえ、福岡市地域防災計画の改定によって追加となった収容避難所等に加え、一時避難所を対象施設とし、給水ルートの耐震化を計画的に実施します。

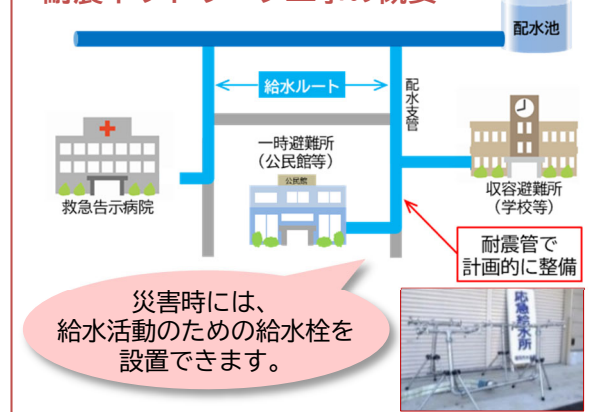
《令和8年度の取組み》

- ◇一時避難所等の対象施設への管路を耐震化 16施設

Point

- ・一時避難所である公民館等を対象施設に加えて、対象90施設の給水ルートの耐震化を実施

耐震ネットワーク工事の概要



(2) 重要施設の耐水化

(予算： 213,401千円)

洪水や高潮浸水、土砂災害等の災害発生時においても、市民生活等への影響を最小限にとどめるため、浄水場や取水場等の重要な水道施設や災害対策の拠点である水道局本庁舎について、耐水化のための対策強化を図ります。

《令和8年度の取組み》

- ◇水道局本庁舎の電源喪失対策
- ◇夫婦石浄水場の土石流対策

Point

- ・近年の気候変動を踏まえ、令和10年度末までに、重要施設5施設の耐水化完了を目指す

水道局本庁舎の電源喪失対策



(3) 様々な自然災害への備え

(予算： 192,960千円)

地震をはじめ、台風や豪雨、落雷、寒波など、様々な自然災害発生時においても、給水への影響を最小限にとどめることができるよう、配水調整システムによる浄水場間の流量調整（相互融通）、配水管のループ化、非常用発電装置の増強（貯蔵燃料の増量など）など、バックアップ機能の充実を図るとともに、迅速かつ的確に対応できるよう、各種危機管理マニュアルの見直しを適宜実施します。

《令和8年度の取組み》

- ◇夫婦石浄水場等の非常用発電装置の増強

Point

- ・令和10年度末までに、重要施設10施設の非常用発電装置増強完了を目指す（貯蔵燃料を1日分程度から3日分に強化）

(4) 水道施設のセキュリティの確保

(予算： 95,868千円)

水道施設のセキュリティを確保するため、機械警備やカメラによる監視を継続するとともに、水質異常監視体制強化のため、水道原水の監視に加え、浄水処理後における魚類監視装置の導入に着手する。

《令和8年度の取組み》

- ◇浄水場等の機械警備

新規 ◇浄水処理後における魚類監視装置の導入に係る実施設計 等

(1) 積極的な情報提供

(予算: 25,837千円)

広報紙やホームページ、ソーシャルメディア等の様々な広報媒体、イベントを通して、お客さまが必要としている情報を積極的に提供するとともに、対象に合わせた広報媒体を選択するなど、戦略的な広報に取り組みます。特に、福岡市で使う水道水の約3分の1を筑後川からいただいていることや水道の必要性と重要性、水道料金の使い道等の情報を提供するとともに、こども職業体験等を実施し、水道の仕事の魅力を発信します。

《令和8年度の取組み》

- ◇イラスト等を用いた分かりやすい広報紙の発行
- ◇Instagram等のデジタル媒体による情報発信
- ◇こども水道教室や職業体験の実施 等

Point

- ・過去2度の大渇水の経験を踏まえ、水は限りある資源であることや筑後川など水源地域・流域への感謝を積極的に発信

若年層及び子どもを対象とした広報

広報紙「みずだより」

より多くの若年層に読んでもらうため、イラストやキャラクターを活用し、視覚的に分かりやすい記事を掲載



広報紙「みずだより」

こども水道教室

水道水ができるまでの仕組みなど、「じゃ口の向こう側への理解」を深めてもらうため、市内の小学4年生を対象とした出前授業を実施



こども職業体験

こども職業体験

未来を担う子どもたちが、「水道の仕事に直に体験」する機会を創出

(2) 水道DXの推進

(予算: 64,722千円)

事業運営のあらゆる分野において、ICT等を積極的に活用することにより、業務の効率性・生産性の向上や、迅速で利便性の高いサービスの実現を目指し、「水道DX」の取組みを進めます。また、DX人材の育成にも取り組み、働き方DXを推進します。

《令和8年度の取組み》

- 拡充** ◇IoTセンサを活用したポンプ設備状態保全の拡充
- 新規** ◇給水装置工事完了検査のオンライン化 (令和8年度実装)
- ◇IoTセンサや人工衛星画像を活用した水道管漏水調査 等

I o Tセンサを活用したポンプ設備状態保全の拡充

浄水場等のポンプ設備



水道局 (事務所等)



無線通信

監視
分析
計画

これまで経過年数に応じて定期的に行っていた設備の修繕や更新を、IoTセンサにより機器毎の劣化状態に応じて実施し、設備の延命化やライフサイクルコストの削減を目指すもの

※高宮浄水場 (令和4年度より設置済) から他浄水場へ拡充

給水装置工事完了検査のオンライン化

事務所



工事現場



遠隔会議システムを活用し、事務所からリモートで検査を実施し、移動時間の削減や待ち時間の軽減などの業務の効率化に加え、車両移動に伴うCO₂排出抑制にも寄与

(3) 技術の継承等による人材育成

(予算： 36,019千円)

職場における仕事を通じた職員の指導・育成（OJT）をはじめ、水道技術研修所における実技研修等を実施し、技術力の向上を図るとともに、DX人材の育成に取り組みます。

《令和8年度の取組み》

- ◇水道技術研修所における実技研修
- 新規** ◇生成AIを活用した知識共有や技術継承 等

生成AI活用の仕組み

庁内マニュアルなど内部情報のデータベースを参照し、生成AIが分かりやすい回答を即時に生成
⇒円滑な知識共有や技術継承、業務効率化に寄与



(4) 国際貢献活動

(予算： 17,031千円)

節水型都市づくりを通して培ってきた水道技術を活かして、JICA（独立行政法人国際協力機構）等と連携した国際貢献活動を推進します。活動を通して、水道局職員の技術や知識の向上を図り、広い視野を持った人材を育成します。

《令和8年度の取組み》

- ◇JICA等と連携した開発途上国への技術協力（海外への職員派遣や海外研修員の受入など）

水道局の国際貢献活動



海外への職員派遣

水道技術研修所での受入研修

(5) 環境に配慮した事業運営

(予算： 149,519千円)

浄水場や庁舎等の水道施設におけるCO₂排出量の99%は、電力使用によるものです。

水道局では、脱炭素社会の実現に寄与するため、令和4年度から水道施設で使用する電力は、再生可能エネルギー由来電力を調達しています。

《令和8年度の取組み》

- ◇再エネ由来電力の調達 等

再エネ由来電力未調達時のCO₂想定排出量

